



シンポジウム後の記念撮影。デヴィ夫人の姿も

犬が親や兄弟から社会性を学ぶ大切な時期は生後6～12週間、この時期を「社会化期」といいます。ところが、日本では生後36～45日が“売り時”とされているのです。この時期に親から引き離され、市場に出されることは犬の成長にとって決してよいことではありません。生後約35日～50日は特に感染症にかかりやすい時期でもあります。経営事情から、大きい犬を店内に置いておくのは、不利益だという考えもあるらしいのですが。

——そうですね。人間に置き換えて考えればわかるような気がします。最後に今後の活動について教えてください

3月には動物取扱業に関する骨子案が決まる予定です。そこで2月26日に**デモ行進**を行うことになりました。悪徳業者から動物の命を守るための動物愛護法改正を呼びかけます。

私たちが訴えていることは「あまりに理想が高くて現状に合わない」と言われることもあります。でもこちらからすれば理想が高いのではなく、動物たちへの配慮を考えるレベルが低すぎると思うのです。放送作家として経済番組を担当して感じたことなのですが、ビジネスから生まれる本当の価値は、お金だけではなく「どれだけ社会に貢献できたか」ではないでしょうか。

今後も動物達の命が、本当に救われるように、動物愛護法の行方をしっかりと見守っていきたいです。

PROFILE：藤村晃子(ふじむら・あきこ)

日本動物虐待防止協会代表理事。放送作家。2009年DVD『最期の瞳』で不要犬・ネコ回収車に密着し、捨てる側の理由を直撃インタビュー。その様子取材し、捨てられる動物たちの現状をカメラに収めた。同年、動物愛